

科目ナンバー	D9202	要件	保育必修	授業形態	講義	対象学生	I A B I I C D
授業科目	保育実習（保育所）						
実施期	通年	単位数	4単位（うち保育所2単位）	授業担当者	飯田 恵美子・西田 外美江		
【科目の概要】 保育所実習の中で、子どもの観察・理解や保育者の子どもへの関わりを通して科目の知識・技術等の保育理論と実践関係を確認しながら学ぶ。							
【この科目を通して獲得を目指す力】							【関連DP】
ア	保育実習の意義・目的・内容や実習園について理解するとともに、子どもの心身の発達の理解を深める。						1-c、1-d
イ	保育実習に必要な知識、技術を身に付け、手遊び・歌・表現遊び・絵本等、発達に応じた方法を習得し実践できる。						1-a、2-c
ウ	実習の計画、実践、観察、記録方法、内容について具体的に考察することができる。						3-a
エ	自ら積極的に子どもに関わる意欲をもち、子ども理解を深めることができる。						4-d
【授業の内容】					【実施日】	【授業時間外学習の内容】	
1	保育所の役割と機能 (1) 保育所の生活と一日の流れ 保育の展開			月 日	実習の手引きを熟読する。 授業を自分なりにまとめ記録する。 ノート提出。		
	(2) 保育所の役割と機能 保育所保育指針の理解			月 日			
2	子ども理解 (1) 子どもの観察と記録による理解			月 日			
	(2) 子どもの発達過程の理解			月 日			
	(3) 子どもへの関わりや援助			月 日			
3	保育内容・環境 (1) 保育計画に基づく保育内容			月 日			
	(2) 子どもの発達過程に応じた保育内容			月 日			
	(3) 子どもの生活や遊びと保育環境			月 日			
	(4) 子どもの健康と安全			月 日			
4	シラバスレベルチェック			月 日			
5	保育計画、観察、記録 (1) 保育課程と指導計画の理解と活用			月 日			
	(2) 記録に基づく考察・自己評価			月 日			
6	専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容			月 日	授業をまとめ記録する。 理想の保育士の目標を考える。 ノート提出。		
	(2) 職員間の役割分担や連携			月 日			
	(3) 保育士の役割と職業倫理			月 日			
【教科書・テキスト】 実習の手引き（本学発行） 保育所保育指針・保育所保育指針解説書（フレーベル館） フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画（萌文書林）				【成績評価の方法】 学習態度・意欲等の履修状況、レポート 20% 実習日誌、実習評価 80% 保育所の評価が不可の場合は総合評価も不可である。			
【参考書・教材】 保育指導大百科事典 開 仁志（一藝社）							
【履修要件及び履修上の注意事項】 ・本学の実習内規の要件を満たしていること。（学則必修、成績評価等） ・提出物は期限厳守。 ・つどい又はちびっこ広場に1回以上参加すること。							
【履修上の遵守事項】 20分以上遅刻の場合は1回欠席とする。やむを得ない場合はレポートを課す。 実習中、無断欠席、無断遅刻した者は単位を認めない。							
【連絡先・オフィスアワー】 連絡先： N13 オフィスアワー：							

＜チェックシート＞				
基準		レベル1	レベル2	レベル3
指標				
ア①	保育実習の意義・目的、実習園についての知識などの情報収集と理解	実習の意義や目的、実習園について手引きを読んだり、インターネットや図書館等を活用して情報を収集できる。	情報収集した（実習の意義、目的、実習園について）内容を自分なりに言葉で説明できる。	実習の意義、目的、保育所の社会的な役割等を理解し、自分なりに実習の目標をもつ。
ア②	子どもの心身の発達の知識	子どもの心身の発達について授業等を通して理解し、大まかに述べることができる。	子どもの年齢に沿った発達の道筋のポイントをまとめることができる。	子どもの年齢に沿った発達の姿を具体例を挙げて説明できる。
イ①	実習に必要な社会人としてのあるべき姿（敬語の使い方、挨拶、臨機応変さ、明朗活発さ、時間厳守等）の理解	実習に必要な社会人としての知識、礼節について述べることができる。	実習に必要な社会人としてとしての知識や礼節について、自分の日常生活や態度を見直すことができる。	社会人、職業人としての態度や責任感を学び、自分の課題を見出し実践しようとする。
イ②	手遊び、歌、造形表現等の年齢に応じた伝達技術	年齢に応じた手遊び、歌遊びや様々な造形活動について3個以上できる。	様々な造形活動や表現遊び、手遊び、歌遊び等年齢に合わせて選び、分かりやすいように実践できる。	学習したり調べたりした表現遊びや造形活動を仲間と実践し合い、楽しさや面白さに気付く。
ウ	実習計画、実践、観察、記録方法、内容の考察	実習計画や観察、記録方法・内容について参考資料を基に書き方が分かる。	実習の手引きや参考資料を参考に、自分なりに計画を立案できる。	自分で実習計画を作成し学習や指導評価を基に課題を見だし、改善できる。
エ	子ども理解への積極的な関わり	子どもの様子、状態、行動を観察し、記録することができる。	子どもの状態から心理状況等の把握に努めたり、積極的に関わりをもとうとしたりする。	身近な子どもに言葉を掛けたり、一緒に遊んだりして積極的に関わり、子ども理解を深めようとしている。
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等				

科目ナンバー	D9206		要件	保育必修	授業形態	実習演習	対象学生	ⅢCD
授業科目	保育実習（施設）							
実施期	前期		単位数	4単位（うち施設2単位）	授業担当者	岩本 健一		
施設で子どもと生活等を共にしながら、その業務内容や保育者の役割を学ぶ。また保育者として求められる態度、行動、倫理観、支援の技術を学び、支援を実践する。また施設の課題等についても理解を深める。								
〔獲得を目指す力の確認〕								〔関連DP〕
ア	社会的養護を担う施設の役割、機能、支援方法を理解している。							1-d
イ	保育士などの支援職員とのコミュニケーションを通じて、支援技術を身に付けている。							2-c
ウ	子どもの動き等を観察して、日々の日課を担うことで、支援に必要な事柄を思考することができる。							3-c
エ	幅広い年齢の子どもとの関わりを通じて、子どもの発達や気持ちを理解し、関心を高めようとしている。							4-a
〔授業の内容〕					〔実施日〕	〔授業時間外学習の内容〕		
1	1 施設の目的と機能	①施設の目的と機能			月 日	実習施設についての理解を学習する。日課の流れを理解し指示がなくても動けるようにする。		
2		② 施設の日課と行事等			月 日			
3		③ 施設保育士の役割とその業務			月 日			
4	2 子どもへの理解	① 入所および通所している子どもの特徴への理解			月 日	子どもの名前や特徴を確実に覚える。子どもの日課の動きから子どもの発達や気持ちを理解する。その時に対応する保育士の動きを観察する。		
5		② 子ども在生活・訓練をともにしながら観察と記録の作成			月 日			
6		③ 個々の子どもの特徴とその支援方法			月 日			
7	3 養護内容・生活環境	①子どもの生活環境への理解			月 日	実習に際して作成した目的が具体的にどのようにすれば達成できるのかを思考し、実践する。また施設の日課等を通じて、どのように施設が取り組まれているのか、職員に質問するなど積極的に関わる。		
8		② 計画に基づく活動と着眼点、実際の支援内容			月 日			
9		③ 子どもの心身の発達を促進させる環境づくり（安全管理）			月 日			
10		④ 生活指導、個々のケア、訓連などの内容理解			月 日			
11	4 支援計画と記録	① 自立支援計画に基づく支援の展開			月 日	施設に入所している子どもの心のケアや治療施設においてはその治療を観察し、支援の展開を学習する。施設が社会とどのように結びついているのかを学習する。実習を振り返り、課題と今後の学習への取り組みを考える。		
12		② 記録に基づく省察、自己評価			月 日			
13	5 専門職としての態度と倫理	①職員として求められる態度と倫理			月 日			
14		② 職場のチームワークと役割			月 日			
15		③ 地域機関との連携			月 日			
〔教科書・テキスト〕 使用しない					〔成績評価の方法〕 実習施設での評価 60% 日誌、報告で40%			
〔参考書・教材〕 本学発行の実習の手引き。保育（施設）実習指導で手渡した資料								
〔履修要件及び履修上の注意事項〕 本学の実習要件を満たしていること。実習先の評価が不可の場合、他の成績が良くても不可となる。また誓約書や検便検査など必要な書類の準備ができないときは、実習を延期とする。								
〔履修上の遵守事項〕 実習先での出来事については、大学、指導教員に必ず報告すること。								
〔連絡先・オフィスアワー〕 連絡先： N5岩本研究室 オフィスアワー：								

＜チェックシート＞					
指標		基準	レベル1	レベル2	レベル3
ア ①	施設の目的、役割についての基礎的な知識	実習施設について実習前に調べ、ある程度概要を把握している。	実習先の施設種別に応じて、その機能と役割を説明することができる。（教科書記載程度）	実習先の施設等について、他の資料等も調べ、説明することができる。	
ア ②	施設生活の流れや行事などの意義と支援についての理解	施設の日課や流れを知っている。（実習マニュアルに記載された程度）	施設の生活の流れについて、その特徴も含め説明することができる。	施設の流れを理解し、そのことが子どもの健全育成にどのように結びついているのか説明することができる。	
ア ③	施設に入所している子どもの特徴や家族背景についての知識	入所児童（通所）の特徴を知っている。	入所・通所児童の特徴を3つ程度説明することができる。	入所および通所児童の特徴を理解し、支援方法や課題について説明することができる。	
イ ①	子どもとコミュニケーションをとる技術	特定の少人数の子どもと会話を交わすことができる。	担当した子どもとコミュニケーションをとり、話題を発展させることができる。	施設に在籍している子どもと分け隔てなく、会話をもち、話題を発展させることができる。	
イ ②	職員と適切な関係を持ち、コミュニケーションをとる技術	施設職員に必要な支援を聞き、実施することができる。	施設職員の指示以外に、疑問に思った点などを聞き、支援を考えることができる。	施設職員と意見交換ができ、支援に必要な計画などを話し合うことができる。	
ウ ①	支援内容の理解に基づき、その支援を展開できる計画の立案	実習目的に応じて、計画を立てることができる。	実習目的に応じて立てた計画について、実際の実習でできなかった場合、修正して行動することができる。	実習目的に応じて、計画を修正し、行動し、その結果を振り返ることができる。	
ウ ②	保育に関する支援計画の立案（設定保育も含め）	施設等で出された課題（設定保育も含め）について簡単なものを立案することができる。	施設から出された課題（節享保育も含め）についていくつかを立案し、施設職員と話し合うことができる。	施設職員から出された課題について立案し、実際にやってみて、振り返りを行うことができる。	
エ	施設の役割、保育士の役割などについて関心	施設保育士の行動や態度を観察することができる。	施設保育士の態度や行動を監察し、自ら率先して行動することができる。	施設保育士の行動や態度を監察し、実際にやってみて、その結果について話し合うなど振り返ることができる。	
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					